2017(平成29)年度 法学既修者入学試験問題(8月試験)

民法

(120分, 総点150点)

試験開始の指示があるまで開かないこと

注意

1. 問題冊子は, 表紙を含めて4ページで, 問題は3問ある。
2. 解答用紙は3枚配布する。解答は解答用紙に記入し, 解答の末尾には, 「以上」と明記すること。また, 用紙が不足した場合には, 追加の用紙を配布するので, 挙手して監督者に知らせること。
3. 下書き用紙として, 白紙を1枚配布する。ただし, 下書き用紙の提出は認めないので, 必ず解答用紙に清書して提出すること。
4. 解答用紙への受験番号, 氏名記入は, 監督者の指示によること。また, 「管理番号」欄は, 大学側が使用するので受験生は記入しないこと。
5. 問題の内容に関する質問には, 応じない。
6. 試験時間内の退場はできない。なお, 試験中の発病等やむを得ない場合には, 挙手により監督者に知らせ, その指示に従うこと。
7. 試験終了後は, 監督者の指示があるまで, 各自の席で待機すること。
8. 問題冊子及び下書き用紙は, 各自で持ち帰ること。

第1問

Aは、事業資金に窮し、委任状を偽造して父Bの代理人として、B所有の甲土地をCに売却し、移転登記がなされた。以下の問いに答えなさい。

1 Bがこの事実に気がついてCに対して移転登記抹消登記請求訴訟を提起した後で死亡し、AがBを単独相続したとする。Aは自己の無権代理行為を追認拒絶することができるだろうか。(30点)

2 この売買契約締結前に、AがBから、B所有の乙土地上に抵当権を設定する代理権を与えられており、その事務はすでに終了したが、AがBから預かった実印等をまだ返しておらず、それを利用してこの売買契約を締結したのであった。Cは、Bからの移転登記抹消登記請求を拒みうるだろうか。1の事案とは異なり、Bは死亡していないものとする。(30点)

第2問

1 酪農家のAはBから乳牛の子牛1頭を30万円で購入したが、その子牛が口蹄疫に罹患していたため、Aが保有していた健康な乳牛全頭を殺処分せざるを得なくなった。AはBに対してどのような法的根拠により、どのような損害の賠償を請求することができるか。(30点)

2 中学生グループのいたずらによるレール上の置石によりX電鉄の急行電車が脱線転覆して民家の建物が損壊し、乗客94名が負傷した。

置石当時の中学生Yほか3名の行動は、まず、事前に置石について各自の経験などを話すことから始まり、次第に置石行為をしてみようという内容に移行し、その後、現場に移動し、Yを除く3名が軌道敷内に入ってレール上に置石をするなどしたが、その3名とYとの間には共同の認識ないし共謀といえるほどの連携はなく、Yは軌道敷内に入らないで置石行為を見ていた。その際、Yは、レール上に残った拳大の石を電車が踏めば電車は間違いなく脱線するであろうと思ったが、あえてその置石を除去しなかつた。

Yを除く3名については各自800万円をXに支払うという示談が成立した。その後、XがYに対して損害賠償を請求した。Xの請求は認められるか。(30点)

第3問

A男とB女は、平成24年6月10日に婚姻届を提出したが、それぞれの仕事の都合で、Aは札幌に、Bは東京に住居を持ち、Aが週末に東京に行くという生活を続けていた。平成25年12月頃から翌年2月までの間、数回にわたり、Bは職場の同僚であるQと不貞行為をおこなった。その後、Bは妊娠し、その子がQの子であるかもしれないと思ったものの、そのことをAに告げることなく、平成26年10月10日にCを出産した。AはCが自分の子であると信じており、自分とBの嫡出子として区役所に出生届を提出し、受理された。その後、Aは種々の鑑定業務を請け負っている取引会社の営業員に勧誘されて、試しに自分とCとのDNA鑑定をBに無断でおこなったところ、平成27年12月25日に、自分とCの間では親子でない確率が99.999%であるというDNA検査の結果が送られてきた。AがBを追及したところ、BはQとの関係を告白し、CがAの子ではないかもしれないことを認めた。

以下の問いに答えなさい。

- 1 Aは、DNA検査の結果、Cが自分の子ではないことが明白だとして、親子関係不存在確認の訴えを裁判所に提起した。この訴えは認められるか。判例の見解に依拠して答えなさい。(15点)
- 2 AはBを許し、Bとの婚姻関係を継続し、Cを自分の子として育てる決意をし、Bが仕事を辞めて札幌に来て同居することを求めた。しかし、Bは仕事を辞める意思はなく、Aとの婚姻関係を継続していく自信がなかったため、Aの申出を拒否し、Aにわからないように転居した。その後、BはAを相手に離婚を求めて、東京家庭裁判所に夫婦関係調整の家事調停を申し立てた。Aはこれに全く応じず、離婚を拒否する意向を示した。そのため、調停は不成立となり、Bは離婚を求める訴えを提起した。Bの離婚請求について、どのように考えるべきか。(15点)